

シンポジウム

古都奈良の都市防災

歴史的建造物・文化財の宝庫である古都奈良も、他の地域同様、歴史上くりかえし大きな地震や水害に見舞われてきました。東日本大震災の経験を活かして、これを機に、来るべき大震災から古都奈良をいかに守っていくか、専門家の叡智を集めてみたいと思います。なお本シンポジウムは国立大学フェスタ2011の一環として奈良女子大学が行うものです。

平成23年 10月22日(土) 13時～17時

主催 奈良女子大学
共催 国立大学協会

入場無料・申込不要



○ 挨拶 野口誠之 奈良女子大学長

○ 講演

地震学の立場から

尾池和夫氏 国際高等研究所所長

文化遺産保存学の立場から

益田兼房氏 立命館大学歴史都市防災
研究センター客員研究員

耐震建築学の立場から

向井洋一氏 神戸大学工学研究科准教授

文化社会学の立場から

小川伸彦氏 奈良女子大学文学部准教授

災害史学の立場から

西谷地晴美氏 奈良女子大学
人間文化研究科准教授

地震考古学の立場から

北條芳隆氏 東海大学文学部教授

○ パネルディスカッション

司会 増井正哉 生活環境学部教授

小路田泰直 文学部教授

会場：
奈良女子大学記念館



お問合せ先